

1 授業の概要

(1) ねらいとする内容項目・授業の柱について

資料は、平成28年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」の「地元紙の記者として」を取り扱った。内容項目をA—(4)「希望と勇気、克己と強い意志」と設定し、中学三年生として受験を迎え、その後、新たなステージに向かう中で、困難や失敗を乗り越えようとする強い意志や前向きな姿勢を養うことは大切であると考えた。

また、この授業では、2つの工夫を柱として授業を展開した。1つは「効果的なグループ活動の設定」、もう1つは「振り返り活動の工夫」である。

(2) 効果的なグループ活動について

登場人物の実際の行動をしたときの思いと逆の行動をした場合の思いを想像させ、自分の意見をもった後で、グループや全体で紹介し合いながら、考えを広げさせる工夫を行った。その後、自分自身を振り返らせるために、「困難に遭遇した際、どう行動するか」という発問を投げかけた。自分の意見をもった後で、グループでホワイトボードを用い、自分たちの意見を整理させ(図1)、全体で共有することで、考えの広がりを図った。



図1

(3) 振り返りの工夫

授業の導入と終末では、授業前と授業後の自分の考えの変容に気付かせるために、内容項目に関する考えを記入させる場面を設定し、ワークシートに記入させた。また、グループや学級全体での意見の共有の後に、再度自分の考えをまとめる時間を設定し、考えを深めさせるという工夫を行った。

2 授業の成果

授業の柱として挙げた2つの点を中心に授業の成果を述べたい。

(1) 効果的なグループ活動について

授業の展開の中で、価値に迫るための発問を設定し、個人で思考する時間を確保するとともに、グループや学級全体での交流を通して、自分以外の考えに触れる機会を設定した。その後の道德の授業でも取り入れているが、個→グループ→全体→個という授業の展開の確立によって、生徒自身も自分が気付かなかった考えに触れながら考えをまとめていくことで、

考えの広がりや深まりを実感することができた。

(2) 振り返りの工夫

導入における発問に対しては、単語や文で答える（図2・右端）のに対し、終末では、自分の考えを文章でまとめる（図2・左端）ので、生徒自身にとっても考えの広がりや深まりを実感できていたようであった。また、教師にとっても、生徒の変容に気付くことができるため、評価に生かし、その後の授業改善につなげることができると再確認した。

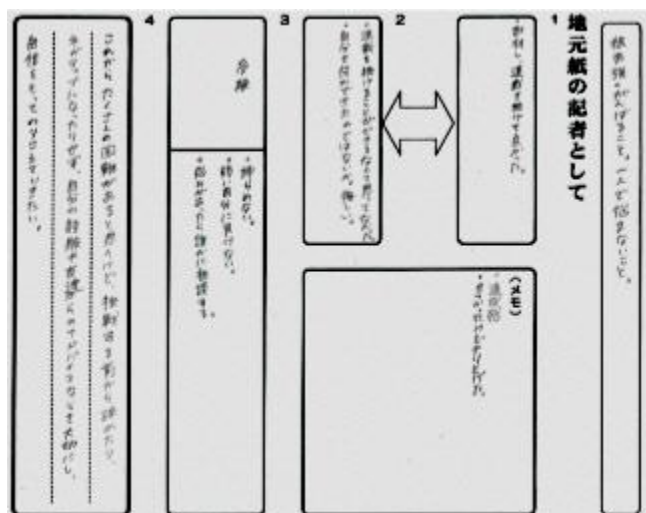


図2

(3) その他の成果

導入や展開の中でICT機器を活用して、画像や授業の流れ、発問等を提示したり、資料の中に出てくる実物の書籍を直接見せたりしたことで、生徒たちの授業に対する関心や意欲が高まり、積極的に発言したり、話を真剣に聞いたりする雰囲気ができた。課題に対して積極的に取り組もうとする姿勢が見られるようになったことは、成果の1つである。

何より、道徳の教材研究を深め、授業展開の確立、発問の工夫、ICT機器の効果的な活用などにより、生徒の道徳授業への取り組む意欲や真剣さが大きく変わったと感じる。

3 今後の課題

まずは、発問の工夫が大きな課題である。資料のどの場面を中心に据え、授業のどの場面で考えを広げ、深めるかなど、ねらいとする道徳的価値を追求させるための発問や、生徒自身の葛藤を促す発問を工夫することが重要であると考え。さらに、価値の内在化を図るために、これまでの経験を想起させるなど、資料へ自我関与させながら、それぞれの考えを互いに発表し合い、認め合う活動を充実させることで、「考え、議論する道徳」の授業へと転換していくことができると実感した。

最後に、「特別の教科 道徳」に対する知識不足と実践不足である。今回の授業を経験したことで、多くのことを学ばせていただいた。しかし、知識だけでは、質の高い授業は展開できない。年間35時間の道徳の授業をどのように計画し、実践していくかによって、それぞれの道徳的価値を意欲的に追求しようとする生徒も増えていくと考える。

今後もさらに、「特別の教科 道徳」に関わるさまざまな情報について、アンテナを高くして収集に努め、自己研鑽に励み、実践を積み重ねていきたい。